



第 66 卷 総 目 次

昭 和 58 (1983) 年

【論 説】

荷子の国家論	波	辺	信一郎(一)
一九二一年ロシア共産党粛清	尼	川	創二(三三)
国の昇格と国府の変容	米	倉	二郎(七〇)
双頭龍文鏡(位至三公鏡)の系譜	西	村	俊(九五)
糖業プランテーションとブスキ農村社会	植	村	泰夫(一一一)
一九世紀後半のフランス社会と教権主義	上	垣	豊(二〇三)
片山 潜	立	川	健治(二三四)
唐代中国および律令期日本における土地表示法	金	田	章裕(一九九)
北京大学と軍閥	小	林	善文(三四四)
中世村落の構造とその変容過程	吉	田	敏弘(三七八)
戦国期の守護権力	今	岡	典和(四五五)
欧陽脩における歴史叙述と慶暦の改革	小	林	義廣(四八二)
第一次国共合作の展開について	北	村	稔(五一六)
幕末における御前会議と「有司」	井	上	生(五九九)
陳朝期ヴェトナムの路制に関する基礎的研究	桃	木	至(六四八)
出羽三山信仰圏の地理学的考察	岩	鼻	通(六八一)
清末湖北省財政の分権的性格	黒	田	明伸(七四一)

一六、七世紀におけるスペインの新世界貿易とフランス……………服部春彦…六(七七六)
 マームーンとムウタシムの新軍団……………余部福三…六(八〇三)

【ノート】

アボリシヨニストの改革姿勢……………清水重一…(一一六)
 ロシア革命直後の食糧政策……………梶川伸一…二(二六六)
 原内閣と山県系官僚……………伊藤之雄…四(五五六)
 カタローグス・パロースムについて……………山邊規子…六(八四九)

【書評】

井上浩一著『ビザンツ帝国』……………山邊規子…一(一三二)
 市川承八郎著『イギリス帝国主義と南アフリカ』……………中山章…三(四四五)
 中国社会科学院歴史研究所清史研究室編『清史論叢』第三輯……………夫馬進…四(五八三)
 Peter Blickle, Deutsche Untertanen Ein Widerspruche……………服部良久…六(八八二)

【紹介】

梶村秀樹著『朝鮮史の枠組と思想』……………康玲子…一(一四一)
 A・F・ライト著・布目潮風・中川努訳『隋代史』……………ジヨーン・リ…二(二九一)
 奈良国立文化財研究所創立三十周年記念論文集刊行会編『文化財論叢』……………宇野隆夫…五(七二七)

【計報】

本会顧問 梅原末治博士計……………有光教一…四(五九一)